

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は3題で変化ない。ページ数(昨年6ページ、今年8ページ)が増加したが、設問の総数はほぼ同じで、全体としての分量は変わらない。

論述問題の数(昨年8題、今年5題)は減少したが、導出過程を記述する計算問題の数(昨年2題、今年3題)は1題増加した。IIの5.(1)(ii)は、計算にあたって水の質量をどのように考えればよいかの判断が難しい。また、IIIの1.の空欄エ・オ、3.および7.は問題文の情報だから判断することは難しい。それ以外は平易な問題が多く、難度の高い計算問題もなかった。全体としての難易は昨年と同程度である。

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題、答の導出過程を記述する問題が例年どおり出題された。また、答の数値に関する桁数の指定がなく、自ら判断する計算問題も出題された。

歴史的な実験装置・実験方法に関する問題も例年と同様に出題された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述、選択 論述	有機、理論	化学	フェノールとヘキサノール(合成、性質、反応) 触媒のはたらきと酵素の特徴	やや易
II	記述、選択 計算、論述	有機、理論	化学基礎 化学	糖類(分類、構造、性質、反応) 凝固点降下 酸化還元滴定	やや易
III	記述、選択 計算、論述	理論、無機	化学	ラボアジェによる鉄およびリンの燃焼実験	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基礎～標準的な難易度の問題が大部分を占めるが、一部、思考力・応用力を要する問題も含まれる。

基礎力を確立した上で、数多くの演習問題にあたり、思考力・応用力を培うよう努めること。論述問題が頻出なので、理由説明や推論の過程、答の導出過程を簡潔に記述する練習も日ごろから積んでおくこと。また、実験操作や実験結果を予測したり考察する問題が出題されることもあるので、実験に関する問題にも意識的に取り組んでおきたい。